

川崎市史市制100周年記念版 第6回編集懇談会

議題 1 : 本のデザインの考え方について(2)

令和7年9月24日

市民の意見を取りいれて、決定した構成案

confidential

No.	構成案	コンテンツの概要
1	めくってわかる 川崎市の100年	ページをめくって、100年間の川崎の地図を重ね合わせ、 移り変わりを追う
2	かわさき定点観測 -100years-	7区の歴史を「場所ごと」に「写真」で振り返る
3	いつだって、川崎は 【川崎テーマ史】	メインテーマ18篇ごとに、歴史や文化を深掘り テーマ例：多摩川、スポーツ、文化、食、工業、多様性
4	人からわかる、川崎の歴史（仮）	編集懇談会委員の意見を元に7区それぞれから人選予定 人物への取材を通して、背景にある歴史や文化を浮き彫り
5	市民が考えた！ 川崎【激狭】テーマ史	テーマ史より更にミクロに物事の歴史や文化を深掘り 市民ワークショップから川崎らしいアイデアを元に選定
6	地図で感じる 歩きたくなる川崎史	本を持って、まち歩きをしたくなるコンテンツ
7	数字で振り返る 川崎の100年	数字による、川崎の歴史や川崎らしさの提示
8	川崎の年表 ～自分や家族のできごとを書いたのしむ～	テーマ史とリンクさせて通史的に整理する年表コンテンツ 興味のある事項を追える、日本史と並記など工夫を凝らす
9	かわさき市民百景	市民から、市内各所や建物などの写真を募集し、 モザイク画のように1つの絵にする

1 本のデザインの考え方について

デザインに関する主な意見・アイデア

confidential

(1) 編集懇談会 (主に第1回～第3回)

ア. 本のテイストや雰囲気について

- ・「川崎ってこんなに楽しいところだ」と、全国の他のまちの方に思ってもらえるようなもの (市民も誇りに)
- ・ターゲット層の、子育て世代 (30～40代) や若者世代が親しみをもてるデザインにするべき
- ・街歩きや写真撮影などのアクションにつながるきっかけを提供している、とわかるデザイン

イ. 要素や見せ方について

- ・「目で見て分かる」を重視した方がよい。長い文章はなかなか読まない世代をターゲットにしている。
- ・紙面にキャラクターが登場すると、子どもが興味をもつきっかけにもなる。
- ・「子どもと巡ると楽しい」ような市内のマップ、写真スポットを入れる。花の名所など季節の話題を含める。
- ・市域の変遷や、多摩川流域の地形の変化をぜひビジュアル的に見せてもらいたい。

(2) アンケート (令和6年11月実施)

設問「どんな話題なら楽しい・面白いと思いますか」 (自由回答) 本の形式やデザインに関わる意見を抜粋

マンガ (3件) / 絵本 (2件) / 文字が多くないもの / 簡単な言葉で若い人も読みやすく / 華やかな写真が豊富 / 昔の写真がいっぱい / 昔の写真を比較 (8件) など

⇒ 意見やアイデアについて、構成案を踏まえながら、本のデザインに反映

1 本のデザインの考え方について

confidential

今回ご説明する本のデザインについて

構成案のNo. 1～6及び8のデザインの考え方を、次ページ以降で説明します。

No.	構成案	コンテンツの概要
1	めくってわかる 川崎市の100年	ページをめくって、100年間の川崎の地図を重ね合わせ、 移り変わりを追う
2	かわさき定点観測 -100years-	7区の歴史を「場所ごと」に「写真」で振り返る
3	いつだって、川崎は。 【川崎テーマ史】	メインテーマ18篇ごとに、歴史や文化を深掘り テーマ例：多摩川、スポーツ、文化、食、工業、多様性
4	人からわかる、川崎の歴史（仮）	編集懇談会委員の意見を元に7区それぞれから人選予定 人物への取材を通して、背景にある歴史や文化を浮き彫り
5	市民が考えた！ 川崎【激狭】テーマ史	テーマ史より更にミクロに物事の歴史や文化を深掘り 市民ワークショップから川崎らしいアイデアを元を選定
6	地図で感じる 歩きたくなる川崎史	本を持って、まち歩きをしたくなるコンテンツ
7	数字で振り返る 川崎の100年	数字による、川崎の歴史や川崎らしさの提示
8	川崎の年表 ～自分や家族のできごとを書いたのしむ～	テーマ史とリンクさせて通史的に整理する年表コンテンツ 興味のある事項を追える、日本史と並記など工夫を凝らす
9	かわさき市民百景	市民から、市内各所や建物などの写真を募集し、 モザイク画のように1つの絵にする

※No.7及びNo.9
のデザインは、
後日御説明します。

議題 1

confidential

これまでに頂いてきたアイデアやご意見をもとに
決定した構成案・コンセプトに沿って作成し、
第5回編集懇談会でいただいたご意見に沿って修正した

本のデザインの考え方(P.8~18)について

- 前回議論をふまえ、より良いデザインに改まっているでしょうか？
(赤枠が改修点。青枠の解説は従前のものです)

※対象読者である、幅広い世代、特に若者世代・子育て世代、
小学生（高学年以上）が読めるように配慮

ご確認～ご承認をいただけると幸いです

1 本のデザインの考え方について

No.1 めくってわかる 川崎市の100年

confidential

川崎の変遷が分かるコンテンツは、巻頭に配置します。

一般流通する書籍では、巻頭ページは「見栄えがよくテンポよくページをめくれる」ことで読者を惹きつけています。

今回、市域の変遷というテーマに対して「めくることが楽しくなる仕掛け」を施します。

透明フィルムページを用いて、地図2枚を重ねる。一見すると市域の区分けを示した地図ですが、フィルムページをめくると、異なる情報（この例では当時の鉄道路線図）が現れます。



グレーのページが
「透明のフィルムページ」

下のページが
1930年代の地図のページ

1 本のデザインの考え方について

No.1 めくってわかる 川崎市の100年 (つづき)

confidential

めくるテンポ重視

イントロは大胆に要素を配置。
めくると市域の大きな変化がわかる。
ページをめくるスピード感を重視する。



2つの地図が見える

1930年当時の地図。
フィルムページをめくると、
当時の鉄道路線が見えてくる
仕掛けにする。



※同様の見開きが
数パターン続きます

1 本のデザインの考え方について

confidential

No.2 かわさきの定点観測 -100years-

この項目では、**7区**の歴史を、「場所」ごとに、「写真」で振り返ります。（各区で2ページ構成）
地域ごとの特長的なランドマークを、時代ごとの写真（ときには浮世絵）を配置し、変遷をビジュアル的に提示します。



川崎のおおよそどのあたりにあるか、簡単な地図で提示する。

各区のロゴマークの由来を説明します

「現在」の写真は、「昔」の写真と同じアングルになるよう、新規で撮影する。
(現状はダミー写真)

キャプション、本文、地名まめ知識、いずれもにおいて、文字をひとまわり大きくしました。

1 本のデザインの考え方について

confidential

No.3 いつだって、川崎は。【川崎テーマ史】

この項目は、メインテーマ18篇ごとに、歴史や文化を深掘りします。
各テーマごとに、2ページ又は4ページで構成し、写真や図・絵を豊富に掲載します。



Partの情報を、タブ状にして示すようにしました。「今、本全体のどこを読んでいるか」がより分かりやすくなるよう、さらに改修予定です

長い文章を続けず、「囲み」を効果的に使用する。どこからでも、興味をもったところから読み始められる。

各ページの【欄外】に、「地名まめ知識」を掲載各区分から10点選定して掲載する予定

1 本のデザインの考え方について

No.3 いつだって、川崎は。【川崎テーマ史】（つづき）

confidential



テーマごとに「色枠」で囲むとともに、色も変更し、テーマの切り替えに気づいてもらえるようにする。



1 本のデザインの考え方について

No.4 人からわかる川崎の歴史（仮）

confidential

この項目は、人物への取材を通して、その背景にある川崎の歴史や、文化、魅力を浮き彫りにしていきます。7区から1名ずつの人選は、編集懇談会委員からの推薦をもとにします。



人物の写真や、その人物にまつわる場所・モノの写真を配置し、余すことなく魅力的な紙面に仕立てる。

この項目は、本書で「最も読み込む・読んでもらう（ページ当たりの文字数が多い）ページ」のため、見出しを適切に設けて、読みやすさに配慮する。

現状の主要なフォント（字体）は、A1ゴシックという、可読性とデザイン性（親しみやすさ、温かみを感じる）を兼ね備えたものですが、本文部分については可読性をより重視し、UDフォント（※）に変更いたします

※UDフォントとは、「ユニバーサルデザイン」の考え方に基いて作られたフォントです。誤読しにくく読みやすいもので、本市の広報紙や、広報用の冊子などで使われています。

1 本のデザインの考え方について

confidential

No.5 市民が考えた！ 川崎【激狭】テーマ史

この項目は、市民ワークショップで提案いただいた「マニアックな川崎の歴史」を、ユニークに取り上げるページです。
【局所的・局地的】な話題を、深く掘り下げることでユニークな歴史コンテンツを目指します。



昨年度の市民ワークショップで「アイデアや意見を募った企画」であることを踏まえ、手作り感がある紙面デザインとする。

「こんなに狭い話題を、よくもこんなに深く掘り下げるのか！」と、可笑しさを感じてもらいたいページであるため、文字は多めに配置する。

本文に色文字を採用していたのを止め、文字色は【黒色】に統一しました

1 本のデザインの考え方について

No.6 地図で感じる 歩きたくなる川崎史

この項目は、本をもって街歩きしたくなるコンテンツです。各区ごとに1コース程度取り上げます。1つ目の見開きでは「散歩案内」として、おすすめコース、現在見ることのできるスポット、花暦などを示します。



現在見ることのできる歴史スポットを簡単に紹介する。

散歩の「目安」を示す。

※現状の道路地図はダミー。
今後、道路名、河川名、橋梁名、交差点名、ランドマークなどを書き込み、より「歩きやすい」「見やすい」道路地図にしていく。

文字を大きくし、掲載点数も多すぎないように（個々の写真がはっきり見える程度に）絞りました

1 本のデザインの考え方について

No.6 地図で感じる 歩きたくなる川崎史（つづき）

2つ目の見開きでは、「歴史」を知ってもらうためのページにします。
このページを読むことで、街歩きがより「学びの深い」ものになる内容を掲載します。



「歴史的事実」などは、長文形式で記載せず、読みやすくする意図で「枠囲み」などにして紹介していく。

現状はダミーを表示しているが、見出しの「歴史的内容」が伝わるスポットを、より広範囲で（徒歩に拘らず）提示していく。

コンテンツには軽重をつける。大きく紹介する話題には、イラストやマンガを添えて、興味を惹かせる。

1 本のデザインの考え方について

confidential

No. 8 川崎の年表 ～自分や家族のできごとを書いたのしむ～

この項目は、川崎の歴史を「通史的に（年代を追って）」知ってもらうためのコンテンツです。

【テーマ史】とのリンクを設ける、ビジュアル要素を加える、自分事にできるように書き込み欄を設けるなど、意見やアイデアをデザインに反映しています。



見出し項目を【テーマ史】の4つのカテゴリーに分け、アイコンで表示することで読者がそのカテゴリーやテーマごとに、歴史的な経緯を追いやすくする。

中面で詳しく説明してる項目は、そのページにリンクを飛ばして、連動性をもたせる。

歴代市長の在任期間を、オビ形式で表示する。

「川崎市のできごと」は画像、「国内のできごと」はイラストとする。
前者は市民に身近に感じてもらえるように、後者は、親しみやすさを感じてもらえるような意図

どの行政区での出来事が分かるように、[]で記載する。
(アイコンでの表示は、他のテーマ史で表示に用いるため、読者が判読しづらくなる)

自分史と、川崎の歴史を比較して「マイ年表」を書き込むためのスペース

1 本のデザインの考え方について

本全体のカラーリング方針

全体テーマ：カワサキをいろどる、さまざまな色

めくってわかる 川崎市の100年	連綿と続いてきた歴史をあらわす 常盤色
かわさき定点観測 -100years	多摩川の象徴であるカワセミをあらわす 翡翠色
いつだって、川崎は【川崎テーマ史】	街の日常を彩る緑地・公園をあらわす 若草色
人からわかる川崎の歴史	多様な祭事や通りの賑わいをあらわす 橙々色
市民が考えた! 川崎【激狭】テーマ史	市民の情熱、街への愛をあらわす 牡丹色
地図で感じる 歩きたくなる川崎史	芸術や音楽を育む文化をあらわす 菖蒲色
数字で振り返る川崎の100年	闇夜にきらめく工場夜景をあらわす 藤紫色
川崎の年表	川崎と世界をつなぐ大海をあらわす 紺碧色
かわさき市民百景	市民が見上げる広い空をあらわす 空色